



《お願い》 お薬がムダになってしまうので、
吸入するとき以外はカバーを開けないでください

表示の見方 カウンターの表示を確認してください

- 30** 薬の残りの使用回数が表示されます。未使用の状態では、最大使用回数*が表示されています。
- 9** 薬の残りが「9」以下になると、左側が赤色になります。
- 0** 薬がなくなり、カウンターが「0」になった後にカバーを開けると、カウンター表示が赤色になります。

*「7」「14」「30」の3種類があります

用法・用量

主治医から指示された用法・用量に従ってください。
(なるべく同じ時間帯に) **1日1回1吸入**してください。

注意事項

- 包装トレイは使用開始直前に開封してください。
- 包装トレイ開封後は6週間以内に使用してください。薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。
- 高温多湿を避けて、室温で保管してください。
- カバーを開けるときに重さ(抵抗)を感じることや、きしみ音がすることがあります。これは、吸入器の内部で薬がセットされるとき音で、故障ではありません。
- カバーを開けてから吸入するまで、振ったり叩いたりしないでください。

薬の吸入は裏面の使用説明書をよく読んでから行ってください

よくあるQ&A

Q. カバーを誤って開けた場合、薬はどうなりますか？

A. カバーを開ける毎に、1回分の薬がセットされます。そのまま吸入せずにカバーを閉じると、薬は内部に格納されるので、その1回分を再び使用することはできません。次回カバーを開けたときは、新しい薬がセットされるので、一度に2回分を吸入することはありません。

Q. 吸入を忘れた場合は、どのようにすればよいですか？

A. 通常通りに吸入できなかった場合は、気が付いた時点で、速やかに1回分を吸入してください。次の日からは、通常の時間帯に1日1回1吸入してください。吸入を忘れていた場合でも、1日1回を超えて吸入しない、一度に2回分を吸入しないよう、注意しましょう。

Q. 吸入した感覚はどのような感じでしょうか？

A. 薬が吸入されるとわずかな甘み・苦みや粉の感覚を口の中に感じます。しかし、薬の量がかくわずかであるため、感じない(吸入感を得られない)場合もあります。また、体調などによっても感じない場合もあります。うまく吸入できているか不安な場合は、カバーを閉じずにそのまま追加で1~2回吸入を繰り返してください。

Q. 廃棄はどのようにすればよいですか？

A. 外側の容器はプラスチック製で、内部にはアルミシートが入っています。分解せずに地方自治体により定められた廃棄物処理法に従い、廃棄してください。

パソコン、携帯電話から動画による吸入方法などもご覧いただけます。

▶ <https://kusurigsk.jp>

2次元コードが読み取れない場合は、インターネットに上記アドレスを直接ご入力ください。



エリプタの使い方のお問い合わせは

カスタマー・ケア・センター

TEL: 0120-562-306

(9:00~17:45/土日祝日および当社休業日を除く)

吸入器(エリプタ®)の使い方



《お願い》 お薬がムダになってしまうので、吸入するとき以外はカバーを開けないでください

1



「カチッ※」と音がするまでカバーを開ける

吸入の準備完了です。カウンターが1つ減ったことを確認してください。
カバーを開け、吸入せずに閉じた場合、その1回分は吸入できません。

※カバーを開けるとときに「カチッ」という音が聞こえにくい場合がありますが、カウンターが1つ減っていれば薬はセットされています

2



「フーッ」と息を吐き出す

無理をしない程度に息を吐き出してください。
マウスピース（吸入口）に息を吹きかけないよう、注意してください。

3



マウスピース（吸入口）全体をしっかりとくわえ 「スーッ」と深く吸い込む

肺の奥まで空気を送り届けるイメージで強めに吸い込んでください。



4



吸入器から口を離し少なくとも3～4秒以上、息を止める

5



ゆっくりと息を吐き、いつも通りに呼吸する

吸入後は吸入器(エリプタ)のカバーを閉じてください。

6



吸入後はうがいをする

患者さんによっては、吸入時に甘みや苦みを感じる場合があります。のどや口の中に残っている薬を、洗い流しましょう。
うがいは、副作用の予防になります。

〈苦みへの対応のポイント〉

吸入後のうがいに加え、吸入前に口腔内を湿らせておくことで苦みを和らげる*

*口腔内が乾燥していると、吸入剤が口腔壁面に強固に付着してしまうため、吸入前には口腔内を湿らせておくことと洗い流しやすくなる¹⁾

1) すべての医療者のための明日からできる実践吸入指導 改訂第3版—指導から支援へ—メディカルレビュー社 2018 ; p35-37, 133-135